

2017年4月1日
CCB工法協会

STUDY ON CRACK CONTROL OF RC WALL BASED ON CONTRACTION MECHANISM OF CONCRETE
コンクリートの収縮メカニズムに基づく RC 壁のひび割れ制御に関する研究

このたび、CCB工法協会の松井亮夫会長（株式会社浅沼組技術研究所）が京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程を修了し、博士（工学）の学位が授与されました。

本研究の成果をもとに、鉄筋コンクリート造壁に不可避な乾燥収縮によるひび割れを壁に設けた目地内で確実に誘発させる、高品質な壁を築造するひび割れ誘発目地付き耐震壁構法（鉄筋挿入型ひび割れ制御工法：CCB工法）を提案し、本構法によるひび割れ誘発メカニズムを実験的及び解析的に解明しています。さらに、合理的な耐震壁構造性能評価法（CCB-NAC工法）を提案し、その妥当性についても実験的及び解析的に検討しています。

建物竣工後のひび割れ問題を回避する手法のひとつとして多くの建物に適用でき、予防処置技術として役立つものと存じます。



谷 昌典准教授 松井亮夫博士 西山峰広教授



京都大学博士（工学）学位記